

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

日時：平成30年3月6日（火） 15：00-17：00

場所：京王プラザホテル札幌 ペガサスルーム

議事次第

1. 開会

2. 議事

- (1) タンチョウの飛来状況等について
- (2) 各専門部会における検討状況について
- (3) 検討協議会等の活動に対するPRおよび報道状況について
- (4) 今後の検討事項について
- (5) 取組方針の見直しおよび来年度の取組事項について
- (6) その他

3. 閉会

<配布資料>

議事次第

委員名簿・配席図

資料1：近年のタンチョウ飛来状況〈非公開〉

資料2：各専門部会における検討状況

資料3：検討協議会等の活動に対するPRおよび報道状況

資料4：タンチョウも住めるまちづくりの今後の検討事項

資料5：タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 取組方針の見直し

参考資料1：各主体の関連する取組状況

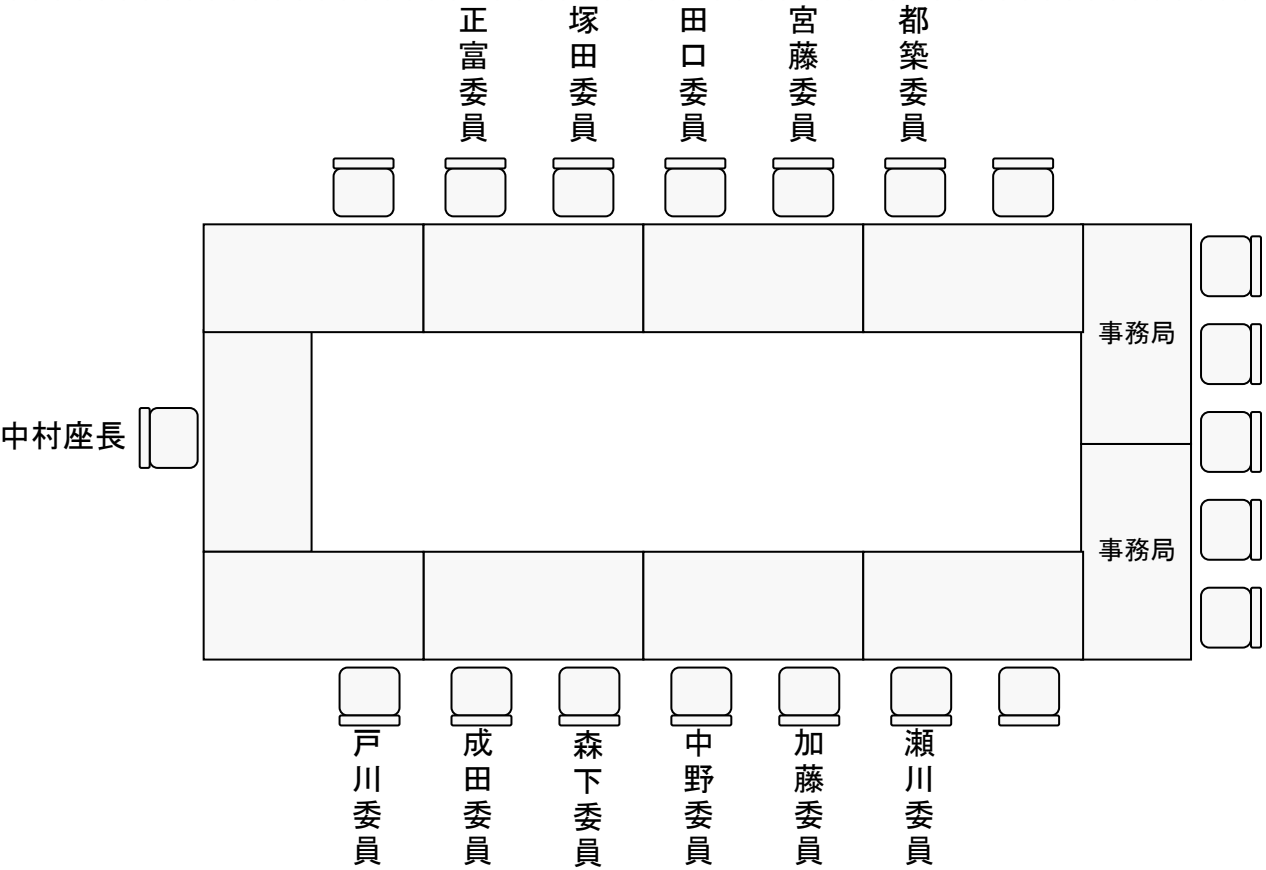
参考資料2：パンフレット「川からはじまる川から広がる魅力ある地域づくり」（国土交通省）

■ 委員名簿

氏名	所属	備考
赤坂 猛	酪農学園大学 教授	欠席
加藤 幸一	舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長	
小磯 修二	一般社団法人 地域研究工房 代表理事	欠席
瀬川 明廣	まおいネットワーク広場	
田口 和哉	環境省 北海道地方環境事務所 野生生物課 課長	
塚田 みゆき	北海道 空知総合振興局 地域創生部長	
都築 一憲	札幌開発建設部 千歳川河川事務所 所長	
戸川 雅光	長沼町長	
中野 政光	長沼町商工会 副会長	
中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授	座長
成田 正夫	ながぬま農業協同組合 代表理事組合長	
正富 宏之	専修大学北海道短期大学 名誉教授	
見田 義之	株式会社アクティブリンク 代表取締役社長	欠席
宮藤 秀之	北海道開発局 札幌開発建設部 次長	
森下 伸	長沼町観光協会 会長	

※敬称略、50 音順

■ 配席図



各専門部会における検討状況

～平成29年度の実組～

『取組方針』に沿った検討状況

第三回検討協議会
(2017/3/6)資料に加筆

【目的】整備後の舞鶴遊水地の利活用を通じた、舞鶴遊水地及び周辺地域における「タンチョウも住めるまち」の実現 【計画期間】平成28年度(2016年度)から平成32年度(2020年度)まで
【将来像】長沼町全域における「タンチョウも住めるまち」の実現

■ タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 (事務局:札幌開発建設部、長沼町／運営補助:日本生態系協会)

平成28年度 〔第1回〕9/6〔第2回〕12/15〔第3回〕3/6	平成29-31年度 〔協議会は年1回、専門部会は年1回程度(別途WG)開催〕	平成32年度 (目標年次)
協議会設立〔現地視察会〕10/7 『タンチョウも住めるまち』のあり方検討 取組方針(案)の提示 検討体制の構築	新たな課題等の検討 (部会の検討状況に併せ適宜)検討方針の改定・変更 専門部会での検討結果報告	タンチョウも住める まちづくりの推進

■ タンチョウも住めるまちづくりの取組方針(案) 赤枠:実施、赤点枠:実施中

検討体制	取組方針	平成28年度	平成29-31年度	平成32年度 (目標年次)
生息環境 専門部会 <10/3>	舞鶴遊水地を 軸としたタン チョウの生息 環境構築及び 社会ルールの 定着	<<生息環境の構築>> 営巣環境の評価 越冬可能環境調査	モニタリング調査の実施 アライグマ対策の実施 営巣に資する地内の環境整備 採食環境調査(遊水地内の採食資源量の把握)	タンチョウの 営巣
連携		<<社会ルールの定着>> 舞鶴遊水地の環境保全と利用のガイドライン(案)の策定 タンチョウの生息に伴う社会的影響の評価と対策の検討実施 地域の環境保全を主導するリーダーの育成		対流促進型 の地域形成
地域づくり 専門部会 <2/23>	タンチョウを シンボルとし た農産業、観 光施策、住民 参加の促進	<<環境教育・住民参加>> 出前授業、地内環境学習、タンチョウクイズ大会の実施 <<農産業・観光・情報発信>> 先進事例の視察 リアルタイム画像発信 町HP等を活用した普及啓発活動	「長沼LOVE増員計画(仮称)」の企画・始動 町の歴史・自然などを伝える地域住民ガイドの養成 タンチョウをシンボルとした商品開発(アート作品、お菓子づくり、安全安心な農産物) 「長沼町タンチョウ応援大使(仮称)」の就任、企画検討 周遊観光ルートの開発、舞鶴遊水地マップの作成	地域経済の 活性化

※代表事例のみを記載。記載事項以外にも取組める案件から随時実施

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 第二回生息環境専門部会開催概要

◆ 舞鶴遊水地における **タンチョウの営巣環境の構築、環境保全と利活用** に関して、具体的な取組内容について議論が行われました。



■開催日時：平成29年10月3日（火） 15:00～17:00
■実施場所：札幌開発建設部 本庁舎4階1・2号会議室

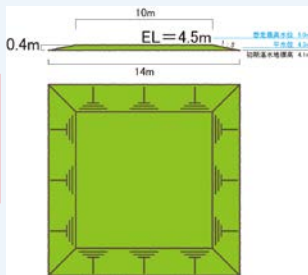
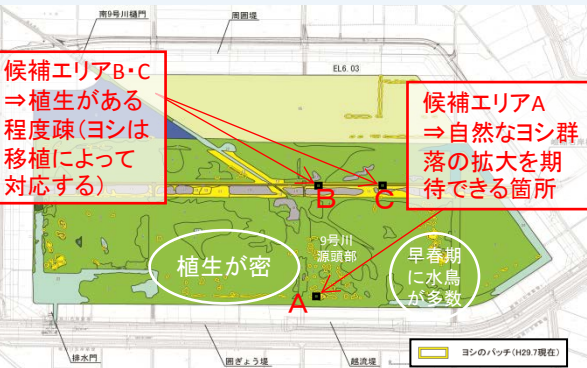
■参加人数：24名（委員10名、報道機関・事務局等14名）
■参加機関：学識経験者、寒地土木研究所、北海道地方環境事務所、札幌開発建設部、長沼町、（公財）日本生態系協会 等

営巣環境構築方策

- タンチョウの営巣環境を構築するため試験的に遊水地内に微高地を造成。
- 抱卵期(4-5月)の冠水すると繁殖に影響を及ぼすため、10年に一度程度の冠水頻度となる高さで微高地を造成。
- 微高地造成箇所では、状況に応じて **ヨシを移植し、ヨシ群落の拡大を目指す**。



委員 矢部和夫教授（札幌市立大学 デザイン学部）



左図: 微高地造成候補エリア
上図: 微高地形状イメージ

※微高地造成は3-5箇所程度を予定。微高地の形状は現場状況に応じて柔軟に対応
※微高地の高さは平水位(EL=4.3m)を基準に0-60cm程度で試行する

社会的課題への対応

- 外来種アライグマ対策は **周辺市町や北海道（振興局）とも協力して広域的に実施することが重要**。
- 食害の実態把握、調査手法等について引き続き議論する。

舞鶴遊水地の環境保全と利活用

- 遊水地にタンチョウが飛来した際、来訪者が過度に接近し、タンチョウが警戒・飛去した事案が発生。
- **利用者のマナー啓発が急務**であることを再確認。
- 自然環境の保全を第一に「環境保全と利用のガイドライン（案）」の策定と周知を進める。



委員 正富宏之名誉教授（専修大学 北海道短期大学）



※接近し車両から来訪者が降りたため、警戒したタンチョウが飛去

■ **地域づくり専門部会からの報告**
利活用の促進、利用者へのマナー普及等を目的に、利活用の拠点となる施設を試験的に仮設。



【総括】

- 遊水地の良好な環境形成に向け、地域での取組みが進んでいることを実感。
- 舞鶴遊水地での取り組みが、先行事例となるよう取り組みの整理・普及が必要。
- 流域に遊水地群が整備されることから、**広域的な連携に向け、協議会でも議論を図っていく**。



座長 中村太士教授（北海道大学大学院 農学研究院）

(参考) 舞鶴遊水地における微高地造成検討

- ◆ 舞鶴遊水地におけるタンチョウの営巣を目指し、現地調査および有識者ヒアリングにより **タンチョウが営巣に利用できる環境づくり（微高地造成）を検討**。平成30年2月上旬に、**生息環境専門部会の助言のもと微高地造成を実施**した。

現地調査 (7/19)



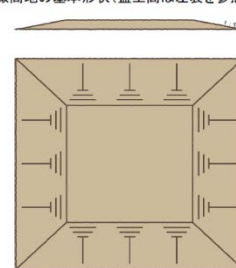
中村座長、正富委員により舞鶴遊水地の現地踏査を行い、植生等の環境条件から営巣誘導箇所(微高地造成位置)を検討した。また、水位変動等のデータから、**造成高などの形状を検討**した。

微高地造成

- タンチョウが営巣期・育雛期の水位上昇を避けられる微高地を遊水地内に造成（抱卵期(4-5月)の冠水頻度を参考に高さを設定）



微高地の基本形状(盛土高は左表を参照)



天端は10m×10mの方形、法はヒナの移動能力を考慮して緩勾配(1:5)
※微高地の形状は現場状況に応じて柔軟に対応

TYPE①	高さ80cm (初期湛水地 4.1m + 0.8m = 4.9m)
TYPE②	高さ40cm (初期湛水地 4.1m + 0.4m = 4.5m)
TYPE③	高さ60cm (初期湛水地 4.1m + 0.6m = 4.7m)
	高さ20cm (初期湛水地 4.1m + 0.2m = 4.3m) 2段階の高さを設定

- 造成工事は平成30年2月上旬に、生息環境専門部会委員の助言を得て実施された（写真は2月6日生息環境専門部会の現地視察会）



今後の取組

- 営巣適性を向上させるため、**ヨシ等の植栽**を実施（来年度の春先予定）。
- 造成箇所を継続的に**モニタリング**（必要に応じて追加的な工事、捕食者対策などを検討）

ヒアリング



矢部和夫 委員（札幌市立大学 デザイン学部 教授）

- ・今回は植生の異なる複数箇所に設置し、植生変化を見ながら追加的な設置も検討されたい
- ・ヨシ植栽など必要があれば方法など検討したい
- ・高く造成すると外来植物の繁茂が懸念される
- ・複数の高さ(多段式もよい)で造成すると植生の多様性が増えて良い環境になる



正富宏之 委員（専修大学北海道短期大学 名誉教授）

- ・営巣場所選択の幅を担保するため、複数箇所造成するのが望ましい
- ・微高地の近傍に水場があるとよい(土を掘り取った跡を埋めずに残す程度で可)
- ・可能なら移植などで**ヨシ群落の拡大を促進したい**
- ・ヒトからある程度離れる(遮蔽される)ことが必要

(参考)アライグマ防除対策の検討・実施

- ◆ アライグマは湿地においても比較的容易に移動することから、タンチョウの生息阻害要因になる可能性が高い。今年度は舞鶴遊水地の**生息実態調査と対策（捕獲）の試行、地域の農業者らへの対策の普及**を実施。

舞鶴遊水地内の生息実態調査

実施時期：平成29年5月23日～7月10日（49日間）

調査方法：舞鶴遊水地内8箇所に自動撮影カメラを設置して記録（静止画像）

調査結果：記録個体数は**延べ197個体（日別最大撮影個体数は14個体）**。複数家族の常時利用が推定される。生息拠点が近傍にあるか、または高密度で生息している。遊水地へは丘陵地帯から移入していると考えられる。



項目	舞鶴遊水地 全域
撮影個体数 （個体）	197
有効撮影日数 （日）	375
撮影頻度 （個体/日）	0.53

舞鶴遊水地内で試験捕獲（箱わな）

設置期間：平成29年11月5日～11月22日（17日間）

捕獲方法：生息実態調査で最も確認個体数の多かった地点に箱わなを設置（一か所）

実施体制：千歳川河川事務所と長沼町で設置し、巡視を分担

結果：アライグマの捕獲数は0（捕獲されなかった）



ワナ設置場所。生息実態調査で最も撮影頻度が高かった場所（水域2；嶮淵右岸樋門付近）に設置した。

設置状況。餌は揚げパン、キャラメルコーン、ドッグフードを使用。

アライグマ防除セミナーの開催

日時：平成30年2月21日 14:00～15:00

目的：地域で連携した効果的な対策のため、地域の農業者を主対象に「防除の考え方」を普及する

講師：北海道大学池田教授

内容：町内の生息・被害実態および捕獲状況、防除の考え方、効果的な捕獲方法、モニタリングの必要性および方法



会場の様子

データ分析に経験をふまえて推奨する箱ワナ設定場所

- 1) 河川、ため池、湿地、用水路などの**水辺**
- 2) **沢**の始点や開け・環境にある**防風林**
- 3) 森林であれば**林縁部**
- 4) **畑、水田、納屋、畜舎などのへり**

(参考)社会ルールの定着

生息環境
専門部会

地域づくり
専門部会

- ◆ タンチョウ等の飛来時には多数の観察者等が集まり、タンチョウが写真愛好家の接近を警戒して飛び去る事案も発生している。**観察マナー定着のため、ガイドライン(案)作成、普及用パンフレットや看板作成および啓発イベントなどに取り組んだ。**

ガイドライン(案)作成

環境省を中心とする生息環境専門部会ワーキンググループでガイドライン(案)を作成した。豊かな自然環境の保全を第一に、地域住民や来訪者(写真愛好家、バードウォッチャー、自然観察者など)らに基本的な考え方や具体的なルールを示すもの。

【豊かな自然環境の構築と保全】

- ・タンチョウをシンボルに、自然環境の重要性や価値を皆で理解して守る

【ワイズユース】

- ・自然資本を分かち合い、幅広い取り組みに活用し、守りながら次世代へ継承

【ルールやマナーを守る】

- ・自然環境を利活用していくためのルールやマナーを普及し、皆で尊重する

イベントの実施

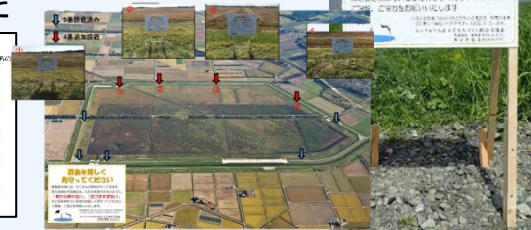
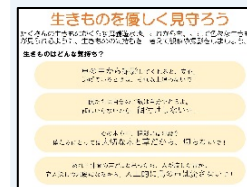
こどもたちに理解を促進し、学校や家庭での関心を高めてもらうことを目指して、環境省や地域づくり専門部会等と連携して、利活用におけるマナーを発信



小学生を対象とした環境学習(舞鶴遊水地)(8月に実施)

看板・掲示等の作成

看板の設置、普及資料を作成し各所で掲示・配布した



今後の取組

○実際に来訪者の過度の接近を警戒してタンチョウが飛去する事案が報告されている事から、一層のマナー普及に取り組む



平成29年度の実施内容

時期	実施項目	実施内容
6-7月	目次案の作成	WGで骨子案に沿った内容の整理
7-8月	有識者ヒアリング	目次案およびガイドライン内容に反映
8-10月	記載内容の充実	項目ごとに具体的な記述を作成
8-12月	イベント実践等における内容の検証	ガイドライン内容の不備や不整合などを検証、課題を内容に反映させる
10月	生息環境専門部会	ガイドライン案の検討、策定方針の確定
10-12月	ガイドライン案の作成	WGでガイドライン案を確定
2月	地域づくり専門部会との意見交換	地域づくりの各取組との対応を確認、運用における課題等を検討

※今後はガイドライン(案)内容を普及させる取り組みを推進

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 第2回地域づくり専門部会開催概要

平成29年度に設置した「PR・普及啓発WG」と「舞鶴遊水地現地関連WG」における取組の情報共有及び、来年度の行動計画について議論が行われました。

- 開催日時:平成30年2月23日(金)19:00~20:30
- 実施場所:長沼町役場3階 第1・2会議室
- 参加人数:26名(委員8名、報道機関・事務局等18名)



【平成29年度 地域づくり専門部会の取組状況】

- 「PR・普及啓発WG」「舞鶴遊水地現地関連WG」で実施した取組成果を共有しました。

《取組結果》

環境教育

- ・広報ながめまでの連載(12回連載)
- ・長沼高校への出前授業(6/22.26、1/25)
- ・バードセーバー作り(11/18)
- ・スノーアートプレイイベント(2/24予定)
- ・春の渡り鳥観察イベント(3/17予定)



11/18に開催したイベントの様子

タンチョウをシンボルとした商品の企画

- ・「タンチョウソフト」企画に向けたヒアリングを実施(10店舗)

取組のPR・マナーの普及啓発

- ・舞鶴遊水地に看板を設置
- ・利活用拠点施設にパネルを設置



その他

- ・兵庫県豊岡市への視察(6月)

●生息環境専門部会からの報告

- ・タンチョウの営巣環境構築のため、遊水地に微高地を造成
- ・環境保全と利用のガイドライン(案)を作成

微高地造成場所



【来年度の行動計画】

- 今年度実施した取組の成果を継続して発展させるとともに、新たな取組を展開する計画を議論しました。

- ・ロゴマークの作成
- ・生息環境専門部会と連携したヨシの植栽イベント開催
- ・長沼町と鶴居村の子ども交流イベント
- ・舞鶴遊水地への看板設置
- ・PR・普及啓発用の動画製作

【委員からの意見】

- ・生きものと触れあえる場(ビオトープ)が遊水地にも必要。
- ・本取組の参考とするためにも、ぜひ、先進地の視察に行きたい。
- ・もっと、タンチョウや水鳥、環境のことを学ぶ場があるとよい。
- ・この取組を通じて、もっと長沼町をPRしていきたい。

【総括】小磯座長

- ・環境教育イベントなどは、より多くの人に参加してもらうことが重要。
- ・拠点施設の活用については、今後の取組の柱として、部会でしっかりと議論していきたい。
- ・テレビ・雑誌など、様々なツールを使って、ブランド力を発信することが重要。
- ・今後、民間企業とも連携・協働していきたい。
- ・鶴居村やむかわ町をはじめ、地域間での連携が重要。



◆地域づくり専門部会では、具体的な取組をスピーディーに実践するため、ワーキンググループ(WG)による取組を延べ14回実施した。現地見学会のほか、PR・普及啓発と、舞鶴遊水地の現地に関連する取組についてWGで検討・実施した。

■ 各WGにおける検討内容

PR・普及啓発WG

○取り扱う内容
環境教育の促進
ブランド化
観光交流の促進
普及啓発活動 など

○メンバー
伊藤委員、市東委員、
萩委員、増田委員

舞鶴遊水地現地関連WG

○取り扱う内容
利活用施設の設置
普及啓発看板の設置など

○メンバー
金澤委員、黒田委員、
駒谷委員、野々川委員、
東山委員

■ 開催の様子



5月9日現地見学



7月27日第2回WG

■ 実施結果

日 付		内 容
平成29年	5月9日	現地見学会 1回目
	6月19日	現地見学会 2回目
	7月20日	第1回 WG
	7月27日	第2回 WG
	8月25日	第1回現地WG
	9月11日	第2回現地WG
	9月14日	第1回普及WG
	10月2日	第2回普及WG
	10月23日	第3回普及WG
	11月18日	長沼タンチョウレンジャー 緊急出動 (バードセーバーづくり)
平成30年	11月21日	第3回現地WG
	1月15日	第4回普及WG
	1月18日	第4回現地WG
	2月24日	スノーアート プレイメント

※WGにおいて「舞鶴遊水地観察小屋（仮称）」が提案された。今後の設置状況および利用者の意見を参考に、名称を検討する

長沼タンチョウレンジャー 緊急出動 ～小鳥たちを守るために、バードセーバーをつくろう！～

【開催概要】

日 時：平成29年11月18日（土）9:00～10:00

参加者：子ども14名、保護者5名、一般1名

運 営：地域づくり専門部会4名、長沼町3名



【実施内容】

①バードセーバーづくり

ガラスに小鳥が衝突してしまうバードストライクの問題とその対策（猛禽類のシルエットをガラス面に貼り付ける）を説明し、バードセーバーづくりを実施。

②秋の渡り鳥の観察

舞鶴遊水地に飛来した渡り鳥やオオハクチョウとコハクチョウの見分け方などを説明。また、双眼鏡や望遠鏡を使って、子供たちが渡り鳥の観察を実施。



舞鶴遊水地における スノーアート (プレイベント)

【開催概要】

日 時：平成30年2月24日（土） 9:00～11:00

趣 旨：来年度以降、こどもや地域の参加者と協働でイベントを実施していくことを目指して、スノーアートの作り方やイベントの進行・安全性の確認等を行うプレイベントとして実施。

参加者：16名（地域づくり専門部会委員、協議会委員、舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会、事務局）



©2018 NOBU KOMA



実施場所



©2018 NOBU KOMA

(参考) 兵庫県豊岡市への先進地視察 (コウノトリも住めるまちづくりの取組)

◆平成29年6月に長沼町、JAながぬま、ながぬま土地改良区、札幌開発建設部などが豊岡市の取り組む「コウノトリ育む農法」の圃場、カントリーエレベーター（乾燥・貯蔵・調製・出荷までを一貫して行う施設）、ハチゴロウの戸島湿地の観察施設などの視察を実施。

期間：平成29年6月28日（火）～30日（金）

参加者：長沼町 戸川町長、ながぬま農業協同組合 成田組合長、ながぬま土地改良区 菊地理事長など全11名

圃場（水田魚道、マルチトープ等）



マルチトープ

水田魚道

水田には、取り組む農法が一目でわかるような旗を設置。また、生き物の逃げ場となるマルチトープ（江）、水路と水田を魚が行き来できるよう水田魚道を設置している水田もある

JAたじま組合長 表敬訪問



JAたじまでは、多様なブランドを展開。平成27年に小ロットで管理できるカントリーエレベーターを新設



コウノトリ育むお米



コウノトリ育む農法で作られた大豆を使用した豆腐と醤油

ハチゴロウの戸島湿地 観察



野生生物から人が見えないように配慮された観察棟。

検討協議会等の活動に関するPRおよび 報道状況

検討協議会等の活動に関するPR①

- ◆ 舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会（呼び戻す会）では、道内のタンチョウ生息地の市民団体との情報交換の他、シンポジウム等での取組紹介を行っている。

むかわ町視察（11月26日）

呼び戻す会が道央でのタンチョウ生息の先進地であるむかわ町を訪問。営巣環境などの視察のほか、同じく地域で活動する市民団体「ネイチャー研究会inむかわ」と、タンチョウの見守り活動などについて意見交換。



水辺からはじまる生態系ネットワーク 全国フォーラム（1月11日）

主催：国土交通省

会場：東京大学伊藤国際学術研究センター
伊藤謝恩ホール

内容：生態系ネットワークの取組を通じた魅力的で活力ある地域づくりの普及を目的に、基調講演や地域で活動する団体によるパネルディスカッションが行われた。

呼び戻す会の柏相談役がパネリストとして登壇し、会の設立経緯やタンチョウも住めるまちづくりの取組について紹介した。



鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ開設三十周年記念シンポジウム

タンチョウ保護のこれから（1月21日）

主催：（公財）日本野鳥の会

会場：札幌国際ビル 国際ホール

内容：道央圏におけるタンチョウの保護を考えることを目的に基調講演や道東・道央でタンチョウ保護に関わる学識経験者と団体によるパネルディスカッションが行われた。

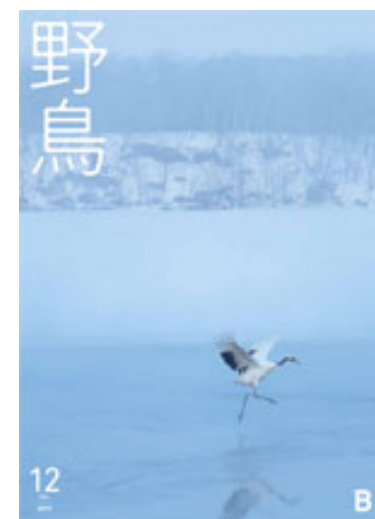
加藤会長はパネリストとして登壇し、タンチョウも住めるまちづくりや会の具体的な取組内容について紹介した。



検討協議会等の活動に関するPR②

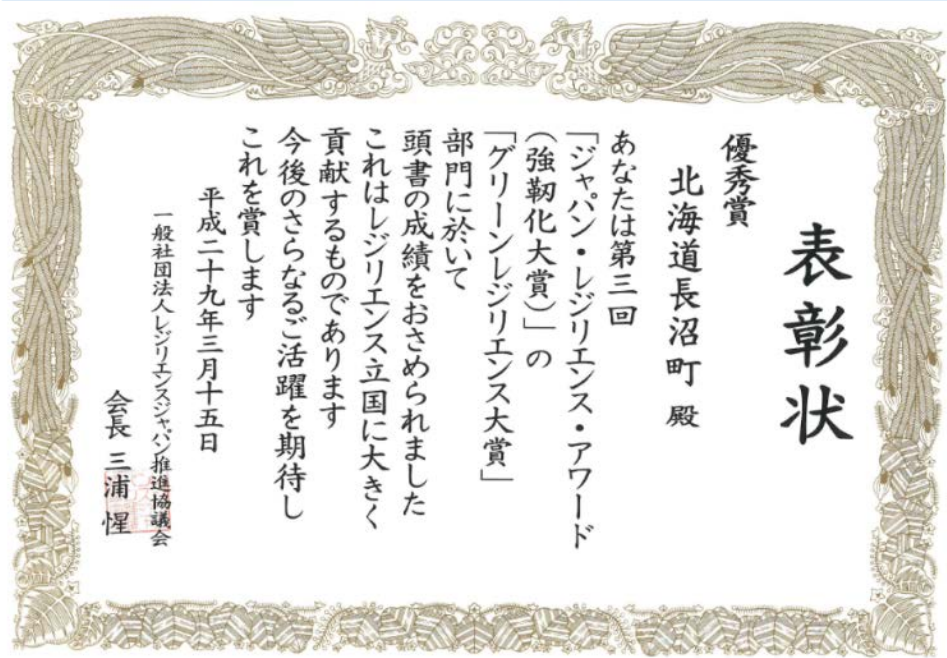
◆ 協議会の取組は以下のパンフレット、広報誌等で紹介されている。

媒体名	発行	発行元	備考
事例ガイド「これからの時代の地域デザイン」～いかす国土、まもる国土、つかう国土～	H29.3	国土交通省 国土政策局	国土利用計画（全国計画）における「複合的な効果をもたらす施策」に関する、参考となる取組事例として紹介された。
河川広報紙「川と人vol.41」	H29.7	石狩川振興財団	治水対策として進められる遊水地事業とあわせて、舞鶴遊水地で進められる本協議会の取組が紹介された。
日本野鳥の会会誌「野鳥」	H29.12	公益財団法人日本野鳥の会	北海道のタンチョウ保護の取組について、これまでの経緯や現状、将来の課題などの特集が掲載された。その一編として、今後の道内でのタンチョウ生息地拡大について、中村座長より寄稿され、舞鶴遊水地を拠点とする本協議会の取組が先進的な事例として紹介された。



検討協議会等の活動に対する外部評価

- ◆ 平成29年3月15日（水）に、東京有楽町で開催された「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2017」において、長沼町の「舞鶴遊水地を軸としたタンチョウも住めるまちづくり」の取組が「グリーンレジリエンス大賞」の優秀賞を受賞。



●ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2017

一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会主催。災害に強い社会構築への取組を表彰するため、平成26年に創設された。



戸川町長から北海道開発局今局長へ受賞を報告

●グリーンレジリエンス大賞

自然のあらゆる資源や仕組み・機能を効果的に活用することで国土強靱化や地方創生に貢献する取組み事例を表彰するため第三回「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）」（平成28年度）から新設された部門。

協議会の取組に関する報道状況

- ◆ 平成26年の呼び戻す会組織以降、協議会設立（平成28年9月）までに18件、それ以降に41件の報道があった（事務局調べ）。報道が増加して認知度が上がっている。

1. 新聞での報道（第三回協議会以降）

	日付	配信先	タイトル
1	H29.3.9	北海道新聞(空知)	「営巣環境整備進める」長沼 タンチョウ検討協が方針
2	H29.3.23	北海道新聞(空知)	タンチョウと共生再び 長沼・舞鶴遊水地取り組み3年
3	H29.3.25	朝日新聞(朝刊)	「ツル住める町」評価 舞鶴遊水地軸に街づくり
4	H29.3.29	北海道建設新聞	長沼町が優秀賞に グリーンレジリエンス大賞
5	H29.4.8	北海道新聞	町に「レジリエンス」優秀賞 長沼タンチョウ回帰 活動を評価
6	H29.4.12	北海道新聞	「ひと2017」舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会 会長 加藤幸一さん
7	H29.7.5	北海道新聞	タンチョウで活性化を 長沼高生 町の取り組みを学ぶ
8	H29.8.29	北海道新聞	タンチョウを再び長沼町に 子どもたち生態学び生きものの観察
9	H29.9.28	北海道新聞	タンチョウ飛来「遠くから見守って」
10	H29.10.3	北海道建設新聞	生息環境構築で議論
11	H29.10.5	北海道新聞	タンチョウ営巣場造成へ 長沼・舞鶴遊水地 観察用施設も
12	H29.10.12	北海道新聞	野鳥観察拠点を仮設
13	H29.12.13	読売新聞	タンチョウ育つ長沼町に 営巣・繁殖に一役「微高地」造成へ
14	H29.12.14	朝日新聞	タンチョウ復活へ連携 長沼の呼び戻す会、先進地・むかわの団体と
15	H29.12.19	北海道新聞	タンチョウ目撃日数 共生検討会議で報告
16	H29.12.21	北海道新聞	遊水地と共生 広がる夢
17	H30.2.8	千歳民報	タンチョウ営巣環境整備へ
18	H30.2.9	北海道新聞	長沼の舞鶴遊水地 タンチョウ営巣場 中旬完成
19	H30.2.23	朝日新聞	タンチョウ 微高地で呼び込め
20	H30.3.3	北海道新聞	PRロゴマーク、動画制作 長沼_新年度にタンチョウ検討協

2. テレビでの報道（第三回協議会以降）

	日付	配信先(放送時間)	番組名
1	H29.4.6	HTB (18:46～)	「イチオシ！」渡り鳥の新しい中継地 長沼・遊水地
2	H29.6.7	NHK (18:27～)	ほっとニュース北海道 番組内「タンチョウ」
3	H29.8.1	HTB (18:27～)	イチオシ！【タンチョウ】
4	H29.10.6	HTB (16:44～)	イチオシ！【野鳥観察施設】
5	H29.11.8	HTB (18:27～)	イチオシ！【特集 長沼タンチョウを呼び戻すプロジェクト】
6	H30.2.6	HTB (18:30～)	イチオシ！【環境づくりは土台から】

タンチョウも住めるまちづくりの今後の検討事項

タンチョウが生息する他地域との連携・交流の推進

タンチョウも住めるまちづくりの取組をさらに発展させるため、鶴居村、むかわ町など、タンチョウが生息する**他地域との連携・交流**を進める。

連携・交流によって、次のような成果が期待される。

- ・ 農業被害対策や見守り活動などの課題や**解決策等の情報共有による効率的な対応**（先行事例に学んでショートカット）
- ・ 環境教育イベントの実施や視察の受入れ等の**相互交流の活性化**
- ・ 長沼町、むかわ町、鶴居村を結ぶ観光ルートづくり等、**観光面での新たな取組へ発展**する可能性



鶴居村との連携

鶴居村では…

タンチョウを題材とした環境教育や観光等の先進地。絶滅の危機にあったタンチョウを地域住民等が給餌により保護し、個体数増加に寄与した。一方で、近年は個体数増加に伴い、人とタンチョウの軋轢が発生している。

● 長沼町と鶴居村の子どもの交流活動(案)

- ・ 子どもたちが地域づくり活動を考えるきっかけをつくることを目的に、子ども(小学生)を対象とした交流活動を企画中。
- ・ 双方の参加者が相互に訪問し、合同で活動する。
- ・ 長沼町では、タンチョウも住めるまちづくりや舞鶴遊水地についての学習、鶴居村ではタンチョウの生態や人との関わり方の学習等を実施する。



長沼町での活動イメージ

むかわ町との連携

むかわ町では…

道央におけるタンチョウ生息の先進地。平成24年以降タンチョウが営巣し、これまで4羽のヒナが育つ。地域の団体「ネイチャー研究会inむかわ」が「むかわタンチョウ見守り隊」を結成し、積極的な見守り活動を実施している。

● 地域で活動する団体同士の連携・交流

むかわ町では、「ネイチャー研究会inむかわ」が多面的な取組を展開している。「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」（長沼町）は、タンチョウの飛来情報の共有や意見交換等を実施しており、連携を継続的に発展させる。



意見交換の状況（平成29年11月）

専門部会間の課題共有と連携した対応

各専門部会における課題を共有し、解決へ向けて引き続き連携した対応を図ることで、**地域の利活用ニーズの充足と生物生息環境の充実（生態系ネットワークの構築）を両立**させた、まちづくりの各種の取組を展開することが期待される。

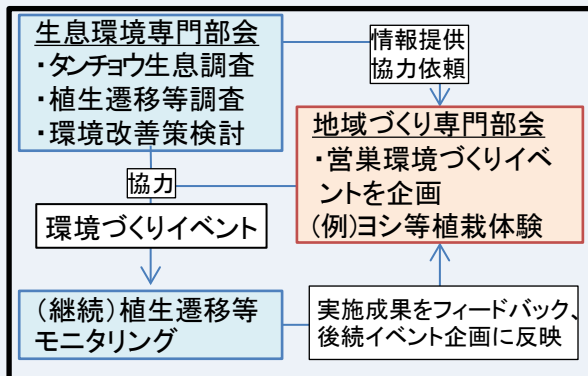
○営巣環境構築

現状：生息環境専門部会を中心にタンチョウの営巣環境を作るため微高地を造成した。



課題：造成箇所の変化をモニタリングするとともに、環境教育での活用検討が必要

対応案：

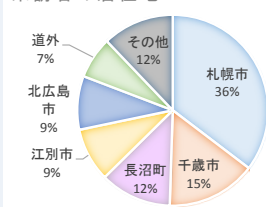


地域でのヨシ等植栽体験イベントの開催など、**生息環境づくりと環境教育が一体となった取組**を進める。

○観察等のマナー定着

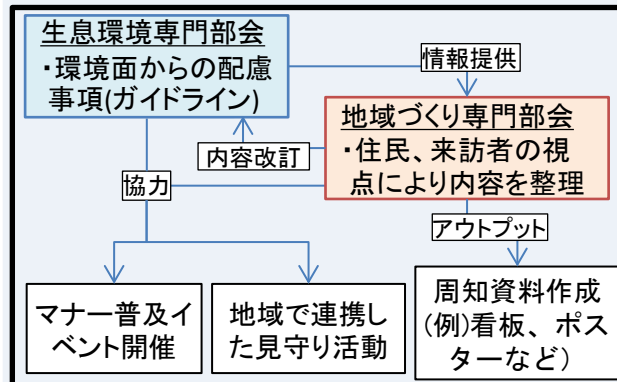
現状：来訪者によるトラブル発生が報告されている。町外からも多数来訪がある。

来訪者の居住地



課題：地域外からも訪れる多数の利用者へ、タンチョウ等の生息に配慮した観察等の利用マナーを定着させることが必要

対応案：



『**環境保全と利活用のガイドライン(案)**』を普及・定着させるため、各種イベント・SNS等での発信、見守り活動、チラシ・看板等での注意喚起の取組を進める。

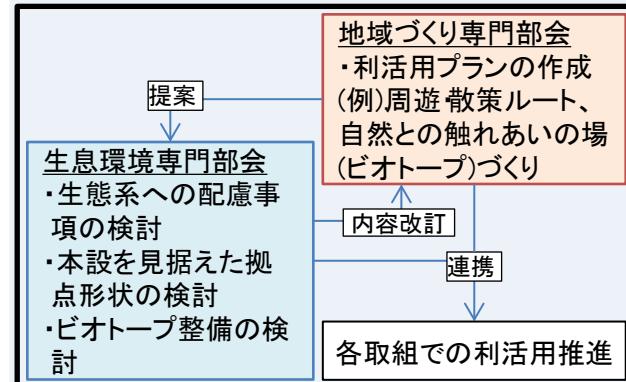
○人を呼び込む仕掛け作り

現状：観察小屋(仮)の利用者アンケートでは、バードウォッチと写真撮影が主要な来訪目的だった。



課題：参加者や来訪者がより一層楽しめる工夫が必要(タンチョウ等と適切な距離を保つ)

対応案：



遊水地内の自然と触れ合える**周遊散策ルートや触れあいの場(ビオトープ)づくり**など、より魅力的な空間の整備に向けた検討を進める。

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

～取組の見直し～

『取組方針』に沿った検討状況

【目的】整備後の舞鶴遊水地の利活用を通じた、舞鶴遊水地及び周辺地域における「タンチョウも住めるまち」の実現

【計画期間】平成28年度(2016年度)から平成32年度(2020年度)まで

【将来像】長沼町全域における「タンチョウも住めるまち」の実現

■ タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 (事務局:札幌開発建設部、長沼町／運営補助:日本生態系協会)

平成28年度 〔第1回〕9/6〔第2回〕12/15〔第3回〕3/6		平成29-31年度 〔協議会は年1回、専門部会は年1回程度(別途WG)開催〕	平成32年度 (目標年次)
協議会設立〔現地視察会〕10/7			タンチョウも住める まちづくりの推進
『タンチョウも住めるまち』のあり方検討		新たな課題等の検討	
取組方針(案)の提示		方針策定	
検討体制の構築		専門部会での検討結果報告	
		(部会の検討状況に併せ適宜)検討方針の改定・変更	

■ タンチョウも住めるまちづくりの取組方針 赤枠:実施、赤点枠:実施中、赤字:追加・変更

検討体制	取組方針	平成28-31年度	平成32年度 (目標年次)
生息環境 専門部会 [2017/10/3] [2018/2/6*] *現地視察会 連携	舞鶴遊水地を軸 としたタンチョ ウの生息環境構 築及び社会ルー ルの定着	≪生息環境の構築≫ 営巣環境の評価 モニタリング調査の実施 営巣に資する地内の環境整備(営巣環境構築) 越冬可能環境調査 アライグマ対策の実施 採食環境調査(遊水地内の採食資源量の把握) ≪社会ルールの定着≫ 環境保全と利用のガイドライン(案)の策定 ガイドライン(案)の普及・定着促進 タンチョウの生息に伴う社会的影響の評価と対策の検討実施 地域の環境保全を主導するリーダーの育成	タンチョウの 営巣 対流促進型の 地域形成
		≪環境教育・住民参加≫ 出前授業、地内環境学習、イベントの実施 他地域との交流 「長沼LOVE増員計画(仮称)」の企画・始動 ロゴマークの作成 町の歴史・自然などを伝える地域住民ガイドの養成 ≪農産業・観光・情報発信≫ 先進事例の視察 タンチョウをシンボルとした商品開発(アート作品、お菓子づくり、安全安心な農産物) リアルタイム画像配信 「長沼町タンチョウ応援大使(仮称)」の就任、企画検討 町HP等を活用した普及啓発活動 周遊観光ルートの開発、舞鶴遊水地マップの作成	地域経済の 活性化

※代表事例のみを記載。記載事項以外にも取組める案件から随時実施

生息環境専門部会の取組

■生息環境における現状と目標

<現 状>

- タンチョウ等の飛来が累次に確認
- フトイ、ガマ、ヒメガマ等の多年生抽水植物（高茎）群落が優占
- 湿地区分の大半はフトイ群落。パッチ状にヨシ群落
- 野生生物に配慮した社会ルールが未定着



<目 標>

- ◆ 舞鶴遊水地におけるタンチョウの営巣
- ◆ 採食場・営巣場の創出（開水面、隠れ家、ヨシ等の巣材含む多様な植生環境 等）
- ◆ タンチョウなど野生生物の生息に配慮した保全と利用の社会ルール定着

■短期的な取組

赤文字が変更箇所

- ✓ 舞鶴遊水地内の営巣環境の評価及びモニタリング調査、営巣環境構築方策の検討
- ✓ 越冬可能環境の調査（遊水地周辺も含めた越冬環境の調査）
- ✓ 自治体や住民、専門家と連携したアライグマ対策の実施
- ✓ 環境保全と利用のガイドライン（案）の普及・改訂

■中期的な取組

- ✓ タンチョウの営巣環境構築
- ✓ 採食環境の調査（遊水地内の採食資源量の把握）
- ✓ 食害など社会的影響の評価と対策の検討・実施
- ✓ 地域の環境保全を主導するリーダーの育成方策の検討

■ 長期的課題

- 広域的な営巣環境の把握
- 流域の生息分布の把握・変遷
- 遊水地周辺の採食資源量の把握 等

地域づくり専門部会の取組

■地域づくりにおける現状と目標

<現 状>

- 札幌、新千歳空港に近い
- 交通の要所にある道の駅マオイの丘公園
- 道内有数の農業地帯
- グリーンツーリズム特区
- 石狩平野を一望する景観
- タンチョウも来るほど豊かな自然環境
- 元気な高齢者、中間層、子ども達



<目 標>

- ◆ 環境教育の促進 ~子ども達が地元を誇りに思う~
- ◆ 住民参加の促進 ~一人一人の住民が活躍する~
- ◆ 地域資源の活用 ~地元で良い物を作り、
高く買ってもらおう~
- ◆ 観光交流の促進 ~来てもらう・知ってもらおう~
- ◆ 地域資源情報のとりまとめ・共有
~地域の資源・財産を次の世代につなげる~

■短期的な取組

赤文字が変更箇所

- ✓ 出前講座、地内環境学習、イベントの実施
- ✓ 他地域(鶴居村・むかわ町など)との連携・交流
- ✓ ロゴマークの作成
- ✓ 先進事例の視察
- ✓ 町HP、広報誌、パンフレット、SNS、YouTube等を活用した取組みの普及啓発活動
- ✓ 地内に飛来したタンチョウ等の様子をリアルタイムで画像配信 等

※代表事例のみを記載。記載事項以外にも取組める案件から随時実施

■中長期的な取組

- ✓ タンチョウをシンボルとした商品開発(アート作品、お菓子づくり、安全安心な農産物)
- ✓ 「ながぬまLOVE増員計画(仮称)」の企画・始動
- ✓ 町の歴史・自然などを伝える地域住民ガイドの養成
- ✓ 「長沼町タンチョウ応援大使(仮称)」の就任、企画検討
- ✓ 周遊観光ルートの開発、舞鶴遊水地マップの作成、フットパスの作成 等

※代表事例のみを記載。記載事項以外にも取組める案件から随時実施

平成30年度のスケジュール

※記載事項のほか、取組める案件から随時実施する

営巣環境

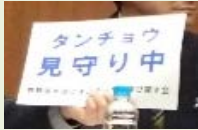
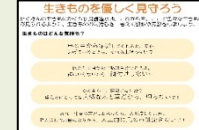
項 目	時 期	内 容
タンチョウ営巣環境の構築	H30.4～(継続)	遊水地内の造成箇所モニタリング(生物の生息(利用)実態、植生変化など)
	H30春先	ヨシ植栽活動 (必要に応じて追加的な環境改善措置の実施)
定着阻害要因への対策(アライグマ対策)	H30.4～(継続)	遊水地内のアライグマ生息確認調査
	H30.3～	捕獲努力量調査 (町内農家等の有志によるワナ日誌)
タンチョウの生息に伴う社会的影響の評価と対策の検討	(継続)	食害等の影響調査 (食害模倣実験、食害被害の把握調査、対策事例調査など) 写真は呼び戻す会による食害模倣実験(平成29年度実施)
環境保全と利用のガイドライン(案)内容の普及・定着促進	(継続)	イベント、パンフレット等での普及促進
	(継続)	多様な主体の連携による見守り活動
環境教育の推進	(継続)	出前講座
	(継続)	長沼タンチョウレンジャーの活動
住民参加の促進(連携・交流の推進)	H30.7～(予定)	長沼町と鶴居村の子ども交流イベント
	H30.4～	共通の取組ロゴマーク作成
地域資源の活用	H30.6～	商品開発(例:タンチョウソフトクリーム)
地域の利活用意向調査、活用方策の検討と実践	H30.4～(継続)	舞鶴遊水地観察小屋(仮)を活用した利活用状況実態調査の継続
取組の普及啓発・情報発信	H30.5～(継続)	『広報ながぬま』の連載
	H30.4～(継続)	PR・普及啓発用の動画制作検討
	H30.4～(継続)	スノーアート等のイベント 写真はH30.2.24実施のプレイベント

交流促進

経済活性



H29.6.11撮影(舞鶴遊水地)



©2018 NOBU KOMA

各主体の関連する取組状況

- ◆ めざせ！長沼タンチョウレンジャー
- ◆ プロに学ぶ撮影セミナー 野生生物撮影の極意
- ◆ 長沼町広報誌での情報発信
- ◆ 第6回長沼町タンチョウとの共生検討会議

「めざせ！長沼タンチョウレンジャー」の開催



【開催概要】

日時 平成29年8月27日(日)9:00～11:30

主催 環境省北海道地方環境事務所、北海道開発局札幌開発建設部、長沼町

共催 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

後援 長沼町教育委員会

参加者 子ども12名、保護者7名、一般5名

【実施内容】釧路からタンチョウコミュニティの代表音成氏を講師に迎え、参加者とタンチョウとの付き合い方を学びました。

① タンチョウレンジャーの心得(室内)

タンチョウの行動から気持ちを考えるクイズを出題し、タンチョウが警戒したり、怒っているときは近づかないことを確認しました。

「今は全問正解じゃなくても問題ありません！
クイズが終わったら、タンチョウの気持ちが分かるタンチョウレンジャーになってね」



講師の音成氏



「かわいー！」羽がふわふわ」とタンチョウの剥製に大興奮



② 舞鶴遊水地のパトロール(舞鶴遊水地)

子どもたちは虫取り網を持って、コオイムシやアカカネなどの生きものを捕まえました。



③ 長沼タンチョウレンジャーの認定

北海道地方環境事務所より、子ども達に長沼タンチョウレンジャー認定証を授与しました。



プロに学ぶ撮影セミナー

野生生物撮影の極意の開催

【開催概要】

日時 平成30年2月3日(土)14:00～15:30
主催 環境省北海道地方環境事務所
共催 (公財)北海道新聞野生生物基金
参加者 約100名

【実施内容】

本セミナーでは、鳥類をはじめとした野生の生きものに寄り添い、生きものの特性を考え、魅力的に撮影する方法を学ぶため、写真家・エッセイストの竹田津実氏による講話や嶋田忠氏、小川巖氏を交えてのトークセッションなどを行いました。



講演『野生生物撮影の極意～生きものに寄り添う撮影方法～』

竹田津氏より、これまでの経験を踏まえて「生きものの撮影は楽しく、自分が心を動かされたときにシャッターをきって欲しい。ただ、他人の土地には不法侵入になるので入ってはいけない」といったお話がありました。

トークセッション『野生生物と私たち』

撮影者がタンチョウに近づき、飛び立たせてしまった映像などを題材にトークセッションを行いました。

出演者からは

- ・画一的なルールを作るのではなく、留意事項などを多くの人と議論が必要。
 - ・野鳥のことを考えずに、写真だけを考えて作品だけを作りたいという人は残念ながら数%いる。そのため、初期から撮影者を楽しませる工夫を施した場所や立ち入り禁止の場所の設置など、ゾーニングが求められる。
- といった意見が出されました。

作品講評『より野鳥を魅力的に撮るためのワザ』

応募作品69点の中から、特に優れた作品として選んだ9点について、会場で講評を行いました。「良い写真は、その背景にあるストーリーや環境にも想像が膨らむ」「全体を考え、あえて対象を中央から外し撮影する」等の講評がありました。



竹田津氏



嶋田氏



小川氏

【写真展のご案内】

応募作品69点の中から選ばれた優秀作品23点を、以下の日程で展示します。ぜひ、お誘いあわせのうえ、お越しください。

○2月4日～9日 札幌地下街オーロラタウン内「オーロラコーナー」

○2月20日～25日 札幌市資料館ミニギャラリー6

○日時未定(3月ごろ) 三井住友信託銀行 札幌支店

長沼町広報誌での情報発信

長沼町で毎月発行している広報誌「ながぬま」では、平成29年3月より「タンチョウ博士のお話」として、町内各校の生徒を含む町民からの質問に正富委員が答える形式の連載をしている。

広報誌「ながぬま」は長沼町のホームページで閲覧できます。
<http://www.maoi-net.jp/maoi/koho.htm>

タンチョウ博士のお話（第2回）

いよいよ今月号から、さんかいらいだいの質問にタンチョウ博士と正室宏之（まさとみ ひろゆき）先生（専修大学北海道短期大学名誉教授）が答えるコーナーがスタートします。

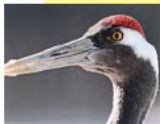
今回は「どうしてタンチョウという名前のですか？（名前の由来）」名前を誰がつけたか？」についてです。

名前の由来の質問は、（中小）朝日さん・鈴木空さん、（北小）奥田千穂さん・島井幸汰さん・建名美絵さん、（南小）山本達也さん、（西小）井上はるのさん、（長中）前多さくらさん・大谷のこさんから、名づけたか質問は、（北小）K・さんからいただきました。

○君（きみ）の名は？

むかし、と言っても、今から85年前(昭和27年)のこと。NHKラジオで連続ドラマ放送され、その時刻は、鶴岡(風呂屋)の女湯から人がなくなる、と言われるほどの人気でした。

当時、風呂が家にあった(内風呂)ことは少なく、お風呂屋さんにわざわざ行っていた時代です。放送時刻に家でラジオを聞かため、風呂どころでなかったのです。このドラマは、その後映画にもなり、これまた大ヒット。その題名が「君の名は」です。今とは同じ長編の長編アニメ映画のほうに、なじみがあってもしょう。立花灘(たばな たけ)と宮本たけ、みずはつ 美はつがアニメの主人公の名前です。



写真：タンチョウの頭
(撮影：正富宏之)

ところで、皆さんの名前は、誰につけてもらいましたか？お父さん？お母さん？それとも、おじいさんやおばあさん？

ばくの名前には、440年ほど前の中国の人が、どうやら関係するようです。その人の名は李時珍(りじちん)。明という国の医者で、生物学者でもありました。この人の書いた本草綱目(ほんそうこうもく)という本に「赤いあたま(丹頂=中国の発音はタンディン)のツルがいる」と書いてあります。これが日本へ伝えられ、赤いあまのつるの名前になり、読み方も日本語に「タンチョウ」となったのさ。

からどの部分の特徴（とちょう）で、名前がついたツルはほかにもいろいろ。例えば、尾羽（おなべ）が黒いのは「オグロツル」、全身が白くてアメリカにほくのは「アメリカシロツル」というぐあい。

実は、ほかにもう1名前前をつけています。例えば、ほくのかをアメリカ人やロシア人に「ツル」と言って、通じました。アメリカ人には「クレーン」、ロシア人には「ジュラブリ」と言わないとダメです。つまり、世界中の人が方言（民族の言葉）でほくを呼んでいます。

各国の人が集まってぼくの話をするとき、これは不便です。そこで、世界共通の名前をばくに付けました。名前がラテン語かラテン語風にする決まりなので、ぼくはグルス・ヤボネンシスと言います。前が「姓」にあたるラテン語 *Grus* で、ツルの意味です。後ろが「名」にあたり、*japonensis* と書きます。何か似た言葉を通想しませんか。そう、英語のジャパニーズです。つまり、ぼくの世界共通名(学名)は

タ ンチョウ博士のお話 (第3回)

から頭が赤くなるの？」という質問についてです。
 ん・O.Jさん・佐藤文音さん・金子真唯さん・H.Hさん・
 ん・小山りんさん・K.Kさん・北長沼 井形流一さん・
 吉友さん・南長沼 M.Sさん・内田美味さん・K.Hさん・
 三上沙紀さん・長沼 T.Aさんから、いつから赤い



写真：タンチョウの頭
(撮影：正富宏之)

て、皮ふが見えているのだとすると、では、なぜこの顔
あるいはこのでも、かまわないのに！

ずです。コチウコウ（黒髪）とかハクウコウ（白髪）とか、
インドなどに住むびくらの仲間のオゾルは、頭が灰色（は
アメリカにはむらびろハロムコウは、一生涯は「頭が、ま
、しかも赤い色になったのが、残念ながらはっきりした
、もう少し少年が進んで、進化（しんか）（生き物の形や
ことを言うようになったら、ばくといんか）（生きものを採

きくなりますが、3オをすぎると一定の大きさ（5×4セ
し、ばくの気分でしたて、広ったり（写真4）、もてん戻
か、気分の中身を敵てはできませんが、緊張（きんぎょう
んか）と、示（さ）（てき）が来たとか、求愛（きゅうあい）

「んやりしているのが、緊張（きんちょう）して立っている（とうちょう）を見てもらうとわかります。いわば、ぼく物ですけど、ぼくの「心」を覗（のぞ）ける貴重（きんじゆう）

6話 (第4回)

です。質問は、〔中小〕安藤 拓未さん・大屋 結瑞さん・田 萼奈さん・河合 心さん、〔南長沼小〕源 義翔さん・村上 翔馬さん、〔長沼高校〕井上 魁斗さん・杉野 きました。



812

ばん多かったのは、タンチヨ
(かんたん)なもの、難(む
ずかしい)なのは「なんでも食べる」で、
「食べる」です。

答えよう！ うん、肉も食べ
ピーマン・・・なんでも
そう、ライオンは動物（ど
草を食べているライオンや、

ワシを草食（そうしょく）動
物と食べるので、雑食（ざっしょく）
動物と同じものが好きと限（か）
りません。アブなど多くの昆虫やクモ、
サメ、けだ、きみはどう？
・カニ（写真2）、それに植物
食（しょく）そうそう、トウキビ（写真3）



(写真：正富宏之)

し、水に首まで突っ込んでタ
(つか)まえるよ。今まで、
植物が知られているけれど、

用してはくは命は保たれてい
まは暮らせない。舞鶴遊水
ことができるだろう。
の石に触れておこう。石は、
ので、すべて丸呑（まるの）
り、わざわざ“食べた”のさ。
給しなくてはならないんだ。

6話 (第5回)

の質問です。質問は、〔中小〕佐藤文音さん・柴田大輔さん、〔大企業〕林大樹さん、〔長高〕黒澤愛来さん・丸山景伍さんなどから寄せられた質問です。

赤ん坊？

。このうち世界でいちばん小さなトリをご存知かな？
重さ 2 g ほど。1 円玉の大きさが直径 2 cm、重さが
枚分と同じになる。
は頭の高さまで 2 m 80 cm、重さ 150 kg にもなるけど、



写真①

いけれど、ぼくは足が長く、おおむけに寝ると尾からも入っているね。さらに、ぼくの長い足は、**関節**であたり、「ひざ」関節は体にくっついて、外から見えないんだ。

首も立てた姿勢で、くちばしを水平にしたときの頭ま

真2)。これは、中学1、2年生男子の平均身長と同じ

ば高いのは、なんと、ぼくたちチンチョウなのだ！

くはその6分の1(8kg)くらい。ヒトでいえば、6かいのは13kgもあったけれど、ぼくの体重なら20羽ほどヨウはトリのくせに飛べないが、ぼくはちがうよ。飛べオオノガンの18kgだけれど、ぼくは15番目くらいかな。の重さだよ。

もちろん、生まれ
(らしい)。体長は
奴ほどの重さ。でも、
ほど体重が増えたっ



写真②

(写真：正富宏之)

第6回長沼町タンチョウとの共生検討会議

前回の共生検討会議（平成28年2月22日開催）以降のタンチョウ飛来状況、タンチョウも住めるまちづくり検討協議会及び各専門部会の検討内容について報告し、意見交換を行いました。

- 開催日時：平成29年12月11日（月）14:00～15:30
- 実施場所：長沼町役場 3階第1・2・3会議室
- 参加機関：委員15名、アドバイザー6名、随行者3名、長沼町6名

開会挨拶（長沼町 戸川町長）



- 10月の生息環境専門部会において検討された微高地の造成やアライグマ対策など、前回の共生検討会議以降の議論や取組状況を皆様にご報告する。
- 今後タンチョウとの共生を進めるうえでの助言やお知恵を、皆様からいただきたい。



会議の様子

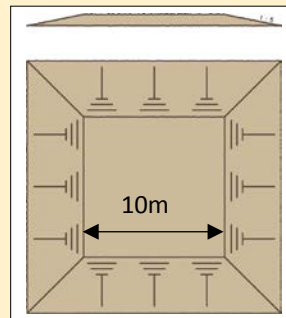
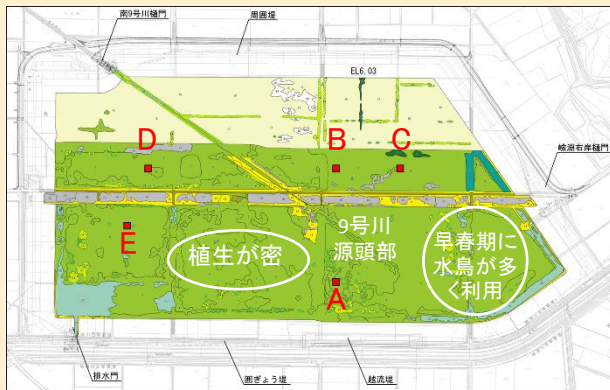
質疑応答・意見交換

【タンチョウの飛来について】

- ・北長沼などに飛来した2羽については雄と雌で、むかわ町で生まれた姉と弟と推測されるため、繁殖に至るかは疑問。
- ・毎年、12月5日にタンチョウの越冬分布調査が行われているが、調査日近辺に道央で確認されたのは今回が初めて。

【遊水地内の営巣環境構築（微高地の造成）について】

- ・植栽を行う予定の3箇所については、造成面積を大きくするのか。
- ⇒造成面積は、植栽を予定している3箇所を含めて全て同じ。



左図：微高地造成候補エリア
上図：微高地形状イメージ

【アライグマ対策】

- ・2月に開催予定のセミナーにおいて、CPUE（捕獲努力量）と生息数、農作物被害の関係や、アライグマ対策における犬の活用について、話題提供をしてもらいたい。

【地域づくり専門部会等の取組状況】

- ・地域づくり専門部会においては、長沼町の水害の歴史や治水といったことを常に念頭において、議論してもらうことを要望する。
- ・利活用拠点施設については、3月以降の設置についても検討してもらいたい。

【環境保全と利用のガイドライン（案）】

- ・ガイドライン（案）は、各地域における様々な知見を参考に作成した。

【秋まき小麦の擬似食害調査】

- ・疑似食害調査について、来年度以降も継続予定。